

2015年3月19日

BMW グループにおけるエネルギーの変化

▶ 全世界で再生可能エネルギーによる電力が初めて 50%を超える。

ミュンヘン発:

2015年の決算発表において、BMWグループ史上初めて、全世界の使用電力のうち半分以上となる51%が再生可能エネルギーで賄われていることが発表された。これは、今後数年で、再生可能エネルギーの割合を段階的に100%まで引き上げることを目標とするBMWグループにとって、重要なマイルストーンとなる。

BMWグループでは、電力を100%再生可能エネルギーで賄うための段階的な計画を策定している。その第1段階を全世界の施設のエネルギー消費効率の向上、第2段階を各拠点への再生可能エネルギーによる発電システムの導入とし、第3段階では、世界中でエネルギー企業からの再生可能エネルギーによる電気の購入を目指している。

BMWグループのサステナビリティおよび環境保護部門を率いるウルスラ・マターは、「再生可能エネルギーに移行する上で、明確な目標と具体的な計画を策定しました。しかし、その実行には経済的実行可能性が欠かせません。適正な枠組み条件があつてこそ、世界の市場で段階的にこの計画を行動に移すことができるのです。」と、述べている。

すでに、世界のBMWグループ全体に供給される電力のうち約51%を再生可能エネルギーが占めている。ドイツのライプツィヒでは風力を利用しており、2013年中頃に工場敷地内で運用を開始した4基の風力発電機で発電した電力はすべて、BMW i3とBMW i8の生産に使用されている。米国サウスカロライナ州のスパータンバーグ工場では、生産に必要なエネルギーの約50%がメタンガス・システムによって賄われている。南アフリカのロスリン工場では、2014年末にバイオガスによる、いわゆるコージェネレーションユニット(Heat and Power: 熱電併給)の基礎が築かれた。ここで使用されるガスは、畜産農場や養鶏場の廃棄物を利用したものである。このシステムの運転開始によって、本年、生産工場に必要なエネルギーの25%を供給できる見込みとなっている。

BMWグループは、サステナビリティに関し、バリュー・チェーンを通して総合的な手法を取っている。この戦略では、CO₂排出量の削減に加え、グループ全体のサプライ・チェーンにおける環境保護、サステナビリティ、従業員の尊重、そして企業としての社会的責任が不可欠な要素となる。また、BMWグループは、サステナブル・バリュー・レポートで、重要業績評価指標と目標を公表している。

BMWグループのサステナビリティ戦略、重要業績評価指標と目標に関する詳細情報
www.bmwgroup.com/svr

BMW グループについて

2014 年における自動車総販売台数は 2,118,000 台、モーターサイクルは 123,000 台となっている。同年度の税引前利益は 87.1 億ユーロ、売上高は約 804 億ユーロを計上した。また、2014 年 12 月末時点における従業員数は 116,324 名である。

この件に関する読者および視聴者からのお問い合わせ先は、
BMW カスタマー・インタラクション・センター: フリーダイヤル 0120-269-437 を
ご掲載ください。

受付時間: 平日 9:00-19:00 / 土日祝 9:00-18:00
BMW インターネット・ウェブサイト: <http://www.bmw.co.jp>

この件に関する報道関係者のお問い合わせは:
BMW Japan Corp. 広報室: 03-6259-8025 (企業広報)